



廣瀨大社の拝殿―河合町川合で

河川群交わる地に水神

廣瀨大社(河合町)は、大和川、飛鳥川、曾我川など奈良盆地を流れる多くの河川が合流する地に鎮座します。このため、主祭神は水をつかさどる若宇加能売命(大忌神)です。山谷の悪水を良水に変え、河川の氾濫を防ぐ神であり、五穀豊穡と人々の食物を守る「御膳神」



としても信仰されています。

大社の縁起では、紀元前89年、龍神から「沼から去る」とお告げがあり、一夜にして沼が陸地になり、橘の木が数多く生えたため崇神天皇が社を創建されたと伝わりま

す。今でも砂地の境内にご神木の橘があります。



(住所) 河合町川合99
(主祭神) 若宇加能売命
(交通) 近鉄池部駅から北東へ徒歩約20分。JR法隆寺駅から

南東へ徒歩約20分
境内自由
(拝観) あり(無料)
(駐車場) あり(無料)
(電話) 0745・56・2065

廣瀨大社 (河合町)

日本書紀によると、その後、天武天皇は「風水を治めれば天下が安泰すかれています。

大忌祭の中で砂を掛け合う一行事が、2月11日に行われる奇祭「砂かけ祭」(御田植祭)として今に継承されています。

何度も激しく宙を舞う境内の砂は、恵みの雨水に見立てられ、田植えの無事を祈る人々の強い祈りが込められています。

(奈良まほろばソムリエの会員 砂田信夫)